平成19年度　第１回　芦屋市立上宮川文化センター運営審議会　会議要旨

日　　時	平成19年8月22日（水）　14：00～16：00
会　　場	芦屋市立上宮川文化センター　３階　大会議室
出 席 者	委 員 長　岡本　威 副委員長　中川　喜代子 委　　員　依田　秀任・牧野　君代・岸田　章子・山口　晋・岩井　圭司 川本　正男・浅原　友美 事 務 局　センター長・隣保館長・人権推進担当課長・ 上宮川文化センター主事 2名
会議の公表	■　公　開　　□　非公開　　□　部分公開 ＜非公開・部分公開とした場合の理由＞
傍聴者数	０　　人

１　議　題

（１）平成１９年度（上半期）実施事業について（報告）

（２）意見交換

（３）その他

２　審議内容

事務局から上記の議題（１）については,事務局作成の資料をもとに報告及び説明を行い,各委員から次のとおりの質問・意見を頂いた。

「主な質疑・応答,意見」

・質問（委員）

児童センターで企画している食育講座の対象は。それとこの講座は単発か継続事業ですか。

・回答（事務局）

対象は幼児とその保護者を考えております。また,出来れば食育問題をシリーズもので継続して実施していきたいと考えています。

・質問（委員）

配布されたアスベスト冊子を見ていますが,アスベストの被害については田舎ではまだ十分知られていません。芦屋市の隣保館が中心になって作成し,全国の隣保館に配布されたことを評価したい。相談業務に際しても良い資料になると思います。いつごろ配布したのですか。

・回答（事務局）

この冊子は企画・制作・監修を兵庫隣保館連絡協議会で,発行は全国隣保館連絡協議会のもとで７月のはじめに,全国約1000館の隣保館に配布しました。

・意見（委員）

児童館を取り巻く状況が,児童福祉法制定の昭和22年頃とは大きく変わっており,国

も法改正を含め抜本的に見直そうという動きがあると聞いている。そのなかで,児童館だからできる,児童センターでしかできないような事業をもっと実施して,その成果を報告集なりを作成し,外部に積極的に発信しアピールしていかないと生き残れないような辛い状況にあると思う。

・意見（委員）

今,児童館のある分野では,子どもの時から色々な職業体験をさせていくことが健全な職業観を育てるという発想で「私の仕事館」的なものを作っていこうという動きがある。「お店屋さんごっこ」みたいなことをしていくことで模擬社会体験をしていく。働くことは楽しいなぁという実感を小さい時から身につけていくプログラムを児童館がやり始めている。とても大切なことなので参考にしてもらいたい。

・意見（委員）

家庭の力が以前に比べると,大変低下している。たとえば,最近朝食を食べずに登校してくる子どもが増え,授業に集中できないということで,朝食を学校等で提供し,親の子育てを支援する動きがあります。そうすると,当初は親も助かるので評価してくれますが,それが続くとそれが当り前となり,普段家庭でしなければならないことがどんどん社会が背負い始めていく。「そんなこと,親に返したらどうですか」というものが,結構今の日本社会にあるのではないでしょうか。子育て支援の部分と家庭で頑張ってやってもらわなければならない部分とをどこかで線引きしないと,公的な支援が家庭の持つ大きな力みたいなものまで奪ってしまうことになる。

・ 予定した議題を報告し,委員の意見をいただいた。

3 その他については,次回の会議予定を平成20年の２月末ごろに開催することに決まった。

以上